

平成27年11月14日(土) 9:30~12:10

記録：楠本

協議会委員参加者

- 西田 芳正 (大阪府立大学人間社会学部教授)
- 山野 正広 (和泉市生きがい健康部高齢介護室高齢支援担当)
- 富永 順三 (㈱ナレッジパートナー代表プロデューサー、本校4期生)
- 桑原 園子 (PTA会長)
- 田中 恒子 (地域教育相談員)

- (1) 校長挨拶
- (2) 会長挨拶
- (3) 平成27年度学校経営計画進捗状況
- (4) 平成27年度前期授業アンケート結果
- (5) 平成27年度学校教育自己診断質問項目
- (6) 生徒状況など
 - ① 進路指導部 (望月教諭)
 - ② 生徒指導部 (田名瀬教諭)
 - ③ 人権教育委員会 (東首席)
- (7) 教員の授業その他の教育活動に関するご意見について
- (8) 協議
- (9) 校長謝辞

[主な質問、意見等]

○は質問、 →は答え、 ●は意見、感想

- 勉強合宿はどこで行ったのか。
 - 青少年海洋センターで実施した。申し込み希望者が多く、人数枠があるため、参加できなかった生徒もいた。来年度は人数枠をもっと増やすことにしている。
- 今度制服が変わるのか。
 - (変形できないように) 女子のスカートにマークがつく。
- 女子は夏服をあまり着用していない。購入して着ないのはもったいない。いらぬのではないのか。
 - 女子生徒にアンケートをとると、「夏服は日に焼けるのでいや」とか、「夏服はかっこ悪い」と言っている者もいる。女子、男子とも夏服はマイナーチェンジする。
- 懲戒数が減ってきたのはなぜか。
 - 登下校時、多くの教員が通学路の見回りをするようになったのが、大きいのではないかと思う。

- 遅刻数が減ってきたのはなぜか。
 - 以前は遅刻回数の合計をカウントする期間が長く、自分の遅刻の回数がよくわからない、というところがあった。遅刻の合計をする期間を短くし、チェック表に遅刻の日時を記入させるように変更した。チェック表に記入させることで、遅刻数を確認させ、みえる化するようになった。このことによって、遅刻数が一定の回数以上にならないよう目標を持たせることができるようになった。
- 遅刻の背景は何か。
 - 遅刻をする生徒はアルバイトをしていることが多く、夜遅くまでしている生徒もいる。また、地域的には、9、10月に祭礼があり、夜遅くまでそれに没頭する。
- 遅刻をもっと減らすにはどうすればよいのか。
 - 地道に言い続けるしかない。遅刻の多い生徒は限られているので、保護者に学校に来てもらって話をしている。
- 就職に関して、卒業した女子の未定率はどんなものか。
 - 未定者は、男子より女子のほうが多い。比率的にも女子のほうが多い。理由としては、女子が希望する職種が少ない。また、ショップでは、アルバイトしか取らず、そこで経験を積んでから採用するところもある。女子でも技能の希望があるが、女子の技能の雇用率が低く、求人が少ない。
- 進学に関して、専門学校に行く生徒が多いが、専門学校卒業後、その進路に就職しているのか。
 - そうとは限らない。
- AO入試等で進学を早く決めているが、その学校のことをちゃんと理解して決めるよう指導しているのか。
 - あわてて決めず、休日、夏休み等に複数のオープンスクール等に参加して、学校の内容を詳しく調べるよう指導している。最初に行ったオープンスクールで歓迎されると、その学校に決めてしまう、という傾向がある。
- 進路を決める上で、会社で働いている先輩の話を聞く機会を持つことができるとも効果的だと思う。そのためにも卒業した先輩と在校生の交流を持つためのネットワークを作ってほしい。定期的に、進学を目指している生徒と卒業生との交流や就職を目指している生徒と会社でがんばっている先輩との交流を持てたらよいと思う。卒業生と話す場を持ってほしい。卒業生とのネットワークを作るためにも同窓会室を設けたらよいと思う。
- 本校にはまだまだ課題がたくさんある。進路に関しては、40周年を機に卒業生とのネットワークを作る必要があると思う。卒業生をロールモデルにして、将来に向けての生徒への動機付けとしたい。中学生が減ってくる中で、伯太高校に来てよかった、楽しかった、と言われるような学校づくりをしていかなければならない。こういう点で、いろいろなご意見をいただきたい。